

お詫びと訂正

2026 年版 大学赤本シリーズ『国際基督教大学』におきまして、内容の一部に誤りがございました。訂正箇所をお知らせいたしますとともに、謹んでお詫び申し上げます。

教学社編集部

記

2025 年度 一般選抜

英語 リーディング 大問Ⅱ 53

解答 (p. 134)

☐ 誤 d

☐ 正 a

全訳 (p. 135 第4段下から2行目)

☐ 誤 それでも

☐ 正 疑いなく

解説 (p. 137 9～11行目)

☐ 誤 逆接の接続詞である d を入れて「様々な特徴はあるが、最も魅力的なのは…」とするのが話の流れとして適切である。a「疑いなく」、b「それゆえに」はこの文脈に合わない。

☐ 正 a「疑いなく」を入れて「様々な特徴はあるが、疑いなく、その中で最も魅力的なのは…」とするのが話の流れとして適切である。b「それゆえに」、d「それにもかかわらず」はこの文脈に合わない。

講評 (p. 138 18～19 行目)

誤 53 と 54 で迷うかもしれない。文と文を接続する副詞を選ばせる 53 では、典型的な接続表現ではない語が正解なので、

正 53 と 54 は難しかったかもしれない。53 では、消去法で

人文・社会科学

解答 (p. 96)

誤 2— a 7— c 34— a

正 2— d 7— b 34— d

解説

正

(p. 96)

2. 「散歩する漱石」の章の最後の二段落に「ハムステッド・ヒースはグレーター・ロンドンの最も海拔の高い場所にあり」「セント・ポール大聖堂…その高さと優美さに圧倒されたに違いない。ハムステッド・ヒースからは、そのドームを遠く眼下に望むことができたのである。漱石は徒歩で街を体感するだけでなく、俯瞰的にロンドンという大都市を視界に収めようとしていたのである」とあるので正解は d。他の選択肢も、c の「日本人の誇りを取り戻す」以外は本文の内容に即しているが、「漱石が好んだ」理由としてあげる直接的な表現は本文にない。

(p. 97)

7. 「中心から周縁へ」の章の二段落目に『シティ』が近代人の意識、すなわち自我を象徴する」とある。漱石の「自我」を象徴するものとしては、その次の段落に「漱石は一貫してエリートの道を歩んでいたわけで、高等教育を受けた知識人としての自負もあつたはずである」とある。「自負」しているものは自我の象徴であるといえるので、正解は b。

(p. 102)

34. ……無言の抵抗とも解釈できる」とある。「無言の抵抗」に最も近いのはdの「憤怒」である。

以上